

②③ 身近の自然を楽しむ 日本を代表する春の花と云えば？

Enjoy the surrounding nature: Speaking of spring flowers that represent Japan?

4/11/2023

吉野輝雄

さくら さくら

やよいの空は 見わたす限り

かすみか雲か 匂いぞ出ずる

いざやいざや 見にゆかん

日本人にとってさくらは特別のものと感じるのは、私だけではないだろう。四季豊かな日本においても、寒く日の出の遅い朝が毎日続くと早く春が来てほしいと思うのは、まさに自然のことだからだ。しかし、防寒器具や服が当たり前の今、童謡「春よ来い」は今も子どもの心にも根付いているだろうか？戦時中の男の生き方として、一斉に見事に咲き、潔く散る桜のように母国のために命を捧げることが誉れと詠われた時代があったが、桜の思いは真逆だったのではないだろうか？現代の桜は、やはり春の到来を告げる花ではないか？桜の開花日をTVが知らせ、日本列島を北上する桜前線を見ながら春の挨拶を交わす姿は平和の象徴そのものと言える。

今号の桜特集は、代表的な染井吉野（桜並木はICU）以外の桜、特に芦花公園内と近隣で見た桜である。今年は、例年よりも早い2月半ばに河津（カワズ）桜が咲き、3月下旬には高遠小彼岸桜が満開となった。河津桜は、伊豆は藤守川の河口付近に咲く赤みを帯びた桜。高遠小彼岸（タカトウコヒガン）桜は、長野県伊那市の高遠城址公園から移植された苗木が今見事な並木に育ち、芦花公園の名物となっている。因みに、新宿御苑にも移植されたが他にはない、と名札に記されている。

アルバムは、芦花公園内と近隣で観た桜である。桜は日本産でも1000種類を超え、分類学的にはバラ科サクラ属に区分され、さらに下位の種として変種、品種分けられると八王子の森林総合研究所の勝木氏が解説している（*1:

https://www.jstage.jst.go.jp/article/treeforesthealth/21/2/21_93/pdf）。解説によると、サクラ属は、ヤマザクラ（山桜）種と栽培種のサトザクラ（里桜）（その中に八重桜、染井吉野桜が属す）に区分される。

公園内には、ヤマザクラ種の大島桜が2本ある。1本は一重で白色の典型的な花、もう1本は“次郎桜”と呼ばれ、芯が薄紅色の花をたくさん大空に向けて咲かせる人気の花だ。名の由来は、徳富蘆花の「みみずのたわごと」（*2, 明治41年）にある。塚戸小学校を好成績で卒業した次郎は蘆花の勧めで青山学院に入学したが、学費不足で外套もなく雪の中牛乳配達をして、肺炎で急死。蘆花夫妻は鉛の様に重い心で葬儀に参列した。（*2 全文: https://www.aozora.gr.jp/cards/000279/files/1704_6917.html）

4月に入ると園内には、黄緑色の八重桜“御衣黄（ギョイコウ）”、典型的な八重桜“関山（カンザン）”、その側には薄ピンク色の垂（シダ）れ桜がその名の通り垂れ下る枝に咲き、春を謳歌している。

なお、近隣で観た桜が3種ある：白色の八重桜の“琴平”と“普賢象”、そして、里桜の一つ“横浜緋桜”で、緋色の花を付ける樹を庭で大事に育てておられる。